

# 正恩寺報

平成 20 年 3 月

宇宙意思は阿弥陀仏の願いで満たされている

この宇宙意思を何と名づけるか、宗派によっていろいろな名づけ方があると思います。親鸞聖人は、この宇宙意思を「阿弥陀仏<sup>あみだぶつ</sup>」と名づけられたわけです。

紀元六世紀の半ばに、日本に仏教が伝わったとき、まず仏像が入ってきましたから、わたしたちは、仏さまといつとすぐ仏像を思い浮かべます。しかし、仏さまというのは、姿、形のないものです。あるいは、わたしたちは、仏教といえば、すぐお釈迦さまというひとりの人間が説いた教えであり、お釈迦さまが説いた教えだけが仏教なのだ、そのお釈迦さまが仏さまなんだ、と思うわけです。

そうじゃないんです。お釈迦さまは、大きな宇宙意思の代弁者で、宇宙意思のほうからひとつの形をもつて、この世の中に出現された方なのです。お釈迦さまは、人間が仏になったのではないのです。仏が人間の姿になられたのです。だから、仏さまというのは、姿、形のない、時間と空間を超越したものだと思っていた方がいいのです。

その大きな宇宙意思が阿弥陀仏なのです。その宇宙意思の力はなにか。この世の中を成り立たしめている原理はなにかというと、それは願いの力です。一切のものを生かすめようという願いです。この宇宙は、一切のものが共存できるのだ、共に生きていけるのだ、という願いが宇宙意志です。だから、まさに宇宙意思は阿弥陀仏なのです。ですから、阿弥陀仏というのは、一切のものを生かすめようという願いの力です。時間、空間を越えた姿、形のない意思なのです。

阿弥陀仏は、抽象的な存在なのですが、実はわたしたちの目に見えるのです。どのような見えるか、と言つと、花の開いたときに蝶が来るのが見えたり、蝶が来るときに花が開いているのを見ることができるといふ形で見えるのです。「ああ、花が開いて蝶が来ているんだ」と、その関係に縁起を見たとき、わたしたちは、この仏の力がわかつてくるのです。「わたしたちも、大きな大きな宇宙のなかで生かされているのだ」といふように目覚めるのです。そのとき、「この世は、生存競争の世界なんだ。勝たなければだめなんだ。人間は強くなければならないんだ」といふ見方がガラリと変わるのです。

「強いものも弱いものも、棲み分けて、みんなが仲良く一緒に住んでいる。それがこの宇宙に対する見方でなければいけない。そう見たとき、初めて宇宙意思が見えてくるのです。宇宙意思の背後にある阿弥陀仏が見えてくるのです。わたしたちが、貧欲の目で見てみると、この宇宙は、あさましい姿に見える。自分の見方でものが見えるのですから、それは当たり前なのです。だから、わたしたちが、ゆったりとした、満たされたものが見方ができたとき、初めてこの宇宙は、わたしたち人間のはからいを越えた豊かなものに見えてくると思います。

「歎異抄」を読む(すずき出版)より

## 春季彼岸会法要

三月二十三日

(日曜日)

二時

「正信偈」唱和

三時

「ご法話

中央仏教学院長

北畠晃融 師

ご家族お揃いでお参りください。  
一人ひとりが勤めてくださる彼岸会法要です。

正恩会

正恩寺

例年通り春季法要の準備、掃除を三月二十一日(金)朝九時からさせていただきます。お時間のある方、ご協力お願い致します。